

# 積極的に社会に参画しようとする態度を養う総合的な学習の時間の展開 — サービス・ラーニングを取り入れた単元の連続的・発展的構成を通して —

府中市立府中明郷学園 吉川 喜昭

## 研究の要約

本研究は、積極的に社会に参画しようとする態度を養う総合的な学習の時間の展開について考察したものである。文献研究から、総合的な学習の時間において積極的に社会に参画しようとする態度を養うためには、児童生徒が地域のニーズに基づき、その課題を解決するために取り組む学習であるサービス・ラーニング（以下SLとする。）の学習過程を取り入れた単元を、児童生徒の発達段階に応じて、連続的かつ発展的に展開することが必要であると整理した。そこで、総合的な学習の時間の全体計画において、SLを取り入れた単元を設定し、単元間、学年間のつながりが発展的なものとなるよう見直しを行った。また、所属校第5学年の総合的な学習の時間の単元にSLを取り入れ、学習過程と単元間のつながりを中心に見直しを行い実施した。その結果、児童は、地域に関する知識を広げ、地域のために活動を行い、自分は地域の一員として地域と関わる責任があると考えることができるようになった。総合的な学習の時間において、SLを取り入れた単元を実施することは、積極的に社会に参画しようとする態度を養うことに有効であるといえる。

## I 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年告示）及び中学校学習指導要領（平成29年告示）では、総合的な学習の時間の目標（3）が、「探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。」<sup>1)2)</sup>と示されている。

所属校は、義務教育学校であり、現在、児童生徒に積極的に社会に参画する起業家精神を養うべく、総合的な学習の時間において府中明郷アントレプレナーシップ開発カリキュラム（Fuchu Meikyo Entrepreneurship Development Curriculums、以下F M E D Cとする。）を編成し、地域と関わりのある単元を取り入れ実施している。

平成30年度全国学力・学習状況調査質問紙における「5年生（1、2年生）までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。」（括弧内は生徒質問紙の内容）の設問に対する肯定的回答率は、第6学年91.9%、第9学年91.0%であり、これまでの取組が、児童生徒と地域との関わりにつながっていると捉えることができる。しかし、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。」の設問に対する肯定的回答率は、第6学

年59.4%、第9学年45.5%であり、地域との関わり自体が、児童生徒の積極的に社会に参画しようとする態度へつながっておらず、その態度を養うことが必要であると考えられる。

地域のニーズに基づき、その課題の解決に向けて取り組む学習活動としてSLがある。中留武昭（2001）は、SLを、児童生徒の地域社会へ積極的に関わる態度の形成に役立つと整理している。牧田東一（2015）は、SLの効果として、学生の社会問題への意識の高まりや積極的な社会参加が期待できるとしている。

また、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総合的な学習の時間編（平成30年、以下「小学校解説」とする。）及び中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総合的な学習の時間編（平成30年、以下「中学校解説」とする。）では、児童生徒の資質・能力がよりよく発展するためには、それぞれの段階でどのような学習を行い、どのような資質・能力の育成を目指すのかを考慮しながら、目標及び内容を、連続的かつ発展的に展開していく必要があると示している。

そこで、単元にSLを取り入れ、第3学年から第9学年までの単元を連続的・発展的に構成し、実施することを通して、児童生徒の積極的に社会に参画

しようとする態度を養うことを目指す。SLを取り入れることで、これまでの地域社会との関わり方を見直し、教科等間・学年間に関連やつながりをもたらした連続的・発展的な単元を構成することを通して、積極的に社会に参画しようとする態度を養うことが期待できる点に独自性があると考え、本主題を設定した。

## II 研究の基本的な考え方

### 1 積極的に社会に参画しようとする態度を養う

#### 総合的な学習の時間の展開について

##### (1) 本研究における参画とは

ロジャー・ハート（1992）は、子供が地域コミュニティに積極的に参画することが、社会発展の確かな道であるとし、子供の参画段階を図1のようにモデル化し、上段に上がるほど、子供が主体的に関わる程度が大きいことを示している。また、下方三つの段階は、大人が主体で行い、子供に正しい情報を与えずに、子供の意思や実態を尊重していないため、参画とは言えないと指摘し、4段目以上の段階が本物の参画であると述べている。さらに、子供は、いつもできるかぎり上の段階で活動しなければいけないわけではなく、適切な段階を選択することが大切であると述べ、そのためにも、子供ができること、できないことを年齢で決めつけずに、大人が様々な工夫を行うべきであると述べている。

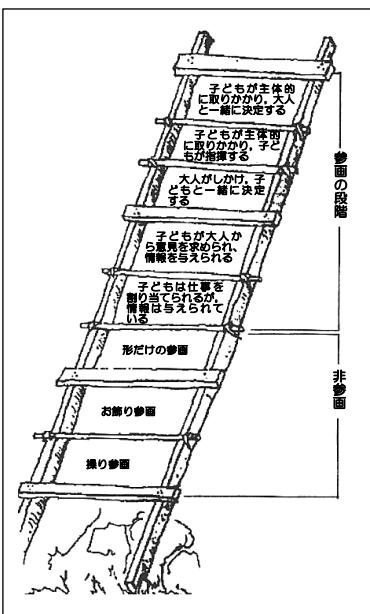


図1 参画のはしご<sup>3)</sup>

このことから、本研究では、あるプロジェクトに加わる際、役割（仕事）や場が大人によって設定されたものだとしても、子供がそのプロジェクトに関する正しい情報を得て、自分たちの意思をもって取り組んでいれば、参画に当たると捉える。

##### (2) 積極的に社会に参画しようとする態度とは

資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書1（平成27年、以下「報告書」とする。）

は、21世紀に求められる資質・能力として、自立した個人が、多様な人々と協働して、新しい価値を創造していく「未来を創る力（実践力）」を挙げている。所属校ではこの力を、学びに向かう力、人間性等に関わる資質・能力として設定している。

また、「報告書」は、新しく会社を起こし、雇用を創出するという「起業家精神」が、よりよい未来の社会づくりにつながることの可能性について示している。所属校のF M E D Cでは、「報告書」の示す図2の3Eモデルを基にして、起業家精神の育成を目指している。

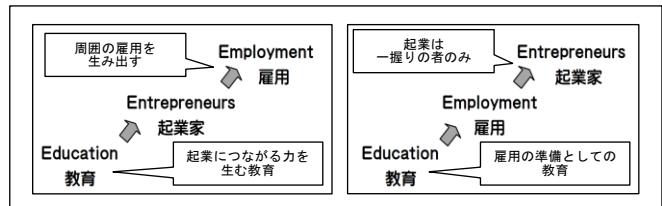


図2 3Eモデル<sup>(1)</sup>

図2は、右部分が示すような、教育が雇用の準備となり、そこで十分な経験を積んだ一握りの者だけが起業する流れではなく、左部分が示すような教育が一人一人の起業につながる力を生み、起業が周囲の者に雇用を生み出す流れを表している。

寺島雅隆（2008）は、起業家精神を、新しい社会（世界）を創造する意欲であり、与えられた現実に安住することなく、自らの意志によって社会（世界）により多くの利益をもたらそうとする行動を伴った意欲であると述べている。

このことから、未来を創る力（実践力）及び起業家精神は、いずれも新しい社会や未来を創造しようとする行動へとつながる点において共通していると考え、本研究では、この二つの力を同義と捉える。

以上のことから、本研究における、積極的に社会に参画しようとする態度とは、進んで新しい価値や新しい社会を創造しようとする行動へとつながる意欲であると捉える。また、第9学年修了時に目指す具体的な姿を、新しい価値を創造し、よりよい未来を創るために、状況に応じた適切な参画の方法を選択しながら、地域や社会に関わろうとする態度と設定する。

### (3) 積極的に社会に参画しようとする態度を養う

#### 総合的な学習の時間の展開を実現するためには

##### ア 所属校で実施するカリキュラムについて

前述のように、所属校では、今年度から起業家精神を養うために、総合的な学習の時間において、F

ME D Cを実施している。また、所属校は平成26年度に、コミュニティ・スクールの指定を受けた。現在はこの機能を生かし、地域と関わりのある単元を開発し実践を進めている。

## イ 積極的に社会に参画しようとする態度を養う

### 総合的な学習の時間の展開とは

内山隆・玉井康之（2016）は、地域に学ぶ活動（地域を探求する学習活動）は、地域社会に貢献するという地域づくりの視点と方法を学ぶものであり、子供の地域社会での自分の責任と行動を律することにもつながっていくと述べている。

地域に学ぶ活動は様々あるが、その中でも特に効果的な学習活動として、SLを挙げることができる。

SLは、1980年から始まったアメリカの教育活動の一つである。多くの研究者によって様々な取組が行われ、その定義も多岐にわたっている。本研究では、それらを整理している古瀬由紀子（平成28年）の定義を援用し、SLは、「児童生徒の成長や学びの深化を目的として、総合的な学習の時間において実施する地域のニーズに基づいたサービス活動と教科の内容を結び付けた学習」とする。ここでいうサービスとは、児童生徒が、地域の課題を解決するために取り組むことを指す。

フルーコ（1996）は、SLを他の学習活動と比較するために図3のように、SLをモデル化している。

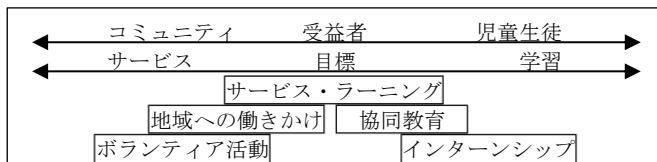


図3 フルーコのサービス・ラーニングのモデル<sup>(2)</sup>

加藤智（2015）は、フルーコの図を用いて、SLは、高度な学習と高度なサービスを兼ね備え、その受益者は、コミュニティ（地域社会）と学習者（児童生徒）の双方にあるという特徴を有していると説明している。

また、マージット・ミサンギ・ワツ（2010）は、SLは、地域社会に対するサービスと、その経験によって支えられている学業上の科目との関連の両方を併せもつものであると述べ、ボランティア活動やインターンシップと区別して説明している。

さらに、唐木清志（2008）は、子供が、SLを通して社会に関わることを楽しく意義のあるものだと実感すれば、自分たちの地域をもっと良くするために、自分にできることを考えていく、地域社会を意

識した市民へ成長を遂げるだろうと述べている。

このように、SLは、地域社会へのサービスを通じた学びの深化や、他教科等との関連、児童生徒の地域社会を意識した市民への成長などの様々な学習効果が期待できる。

また、「小学校解説」及び「中学校解説」では、社会参画の意志や自覚が、一人一人の児童生徒の中に徐々に育成されることが期待されていると示されている。このことを踏まえ、SLを、連続的・発展的に取り入れることが重要であると考える。

これらのことから、積極的に社会に参画しようとする態度を養う総合的な学習の時間の展開を実現するためには、SLを取り入れた単元を所属校のMEDCの中において、連続的・発展的に構成していく必要があると捉える。

## 2 サービス・ラーニングを取り入れた単元の連続的・発展的構成について

### （1）サービス・ラーニングを取り入れるとは

広島版「学びの変革」アクション・プラン（平成26年）が探究的な学習として挙げる「課題発見・解決学習」では、学習過程を、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・創造・表現」「実行」「振り返り」の六つで示しており、探究の過程が何度も繰り返され、スパイラルに高まっていくとされている。

一方、加藤（2015）は、SLの学習過程を次頁図4のような5段階で示し、頭文字からIPARDCサイクルと説明している。さらに近年では「持続（Sustain）」のSを加え、学習過程のサイクルの継続も求められていると述べている。また、SLの学習過程一つ一つは、探究の過程との関連が深いと述べていることから、SLを行うことは、複数の探究の過程を経験することが可能であると考えられる。

また、加藤（2015）は、SLの「振り返り（R）」の過程を、子供が教室で学んだ抽象的な内容と具体的な体験とのつながりを形成するものと述べ、各学習過程での「振り返り」の重要性についても言及している。探究の過程は、いつも順序よく形式通りに繰り返されるわけではないとされているが、「課題発見・解決学習」における「振り返り」は、新たな課題へと向かう重要な過程を担っている。SLにおいては、先に述べた「持続（S）」がこれに当たり、次の学習へつなぐ過程として位置付いている。

以上のことから、本研究におけるSLの学習過程を「課題発見・解決学習」と関連付けながら整

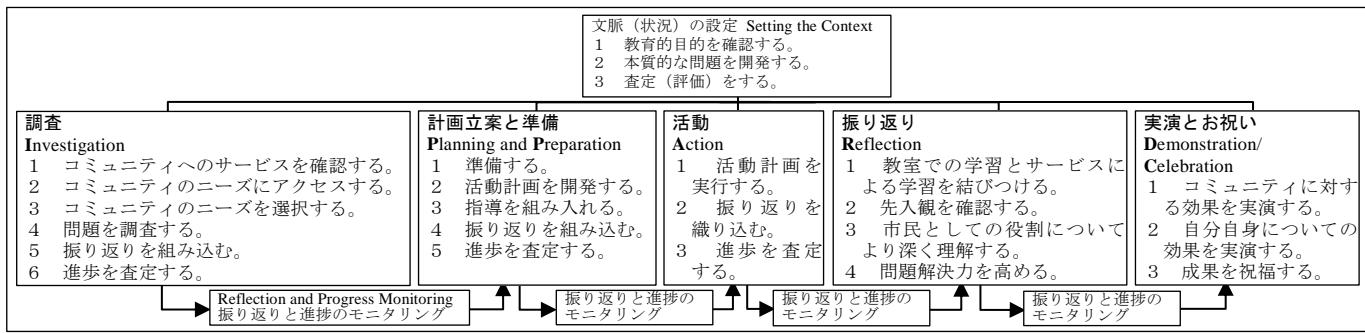


図4 加藤（2015）が示したサービス・ラーニングの学習過程「IPARDCサイクル」<sup>4)</sup>

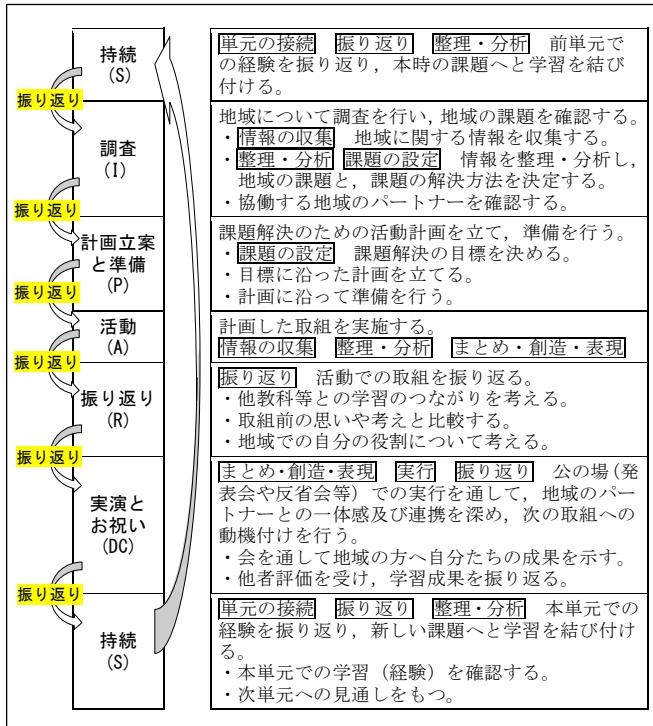


図5 本研究におけるサービス・ラーニングの学習過程<sup>③)</sup>

理し、図5に示す。

「小学校解説」及び「中学校解説」には、総合的な学習の時間は、実社会や実生活の事象を取り上げることから、地域における人材等との協力が欠かせないと示されている。また、中留（2001）は、SLにおいては、地域と児童生徒及び学校が同じ目標に向けて協働する際、パートナーとしての関係にあるとし、学習への計画段階から、地域のパートナーの参加を確保することが、SLを効果的に行うために必要な視座だと述べている。これは、地域の参加者が、教師や学習者として機能するためであるとされる。

以上のことから、SLを取り入れると、学習単元において、地域における人材等である地域のパートナーと協働し、SIPARDCSの学習過程に沿って学習を進めることと捉える。

## (2) サービス・ラーニングを取り入れた単元の連続的・発展的構成とは

内山ら（2016）は、社会に開かれた教育課程の実現のために求められることとして、学年発達を踏まえて、地域を探究する学習活動を吟味することが必要であると述べている。また、「小学校解説」及び「中学校解説」は、児童生徒の資質・能力がよりよく発展するために、それぞれの段階でどのような学習を行い、どのような資質・能力の育成を目指すのかを考慮しながら、目標及び内容を、連続的かつ発展的に展開していく必要があると示している。さらに、各教科等で身に付けた資質・能力や、それまでの総合的な学習の時間において身に付けた資質・能力を相互に関連付けるような学びの展開が重要であることも示している。

これらのことから、SLを取り入れた単元の連続的・発展的構成とは、SLによる地域を探究する学習を各学年へと連続的に位置付けるとともに、発達段階に応じた目指す姿に向けて、各教科等の学習と関連付けながら、より深く地域と関わることができるように単元を発展的に構成することと捉えた。

## (3) 全体計画について

本研究の考え方を取り入れ、FMEDCの全体計画を、所属校職員と連携し修正を図った。まず、第3学年から第9学年の探究課題のうち、地域を核とした単元の内容をSLの視点で見直し、各学年へと連続的に位置付けた。次に、各学年における前後の単元や各教科等の学習との関連を意識し、全体計画を再構成した。このことにより、単元が発展的なものとなるように工夫した。

## III 研究の仮説及び検証の視点と方法

### 1 研究の仮説

総合的な学習の時間において、SLによる地域を探究する学習を取り入れるとともに、発達段階に応

じた目指す姿に向けて、各教科等の学習と関連付けながら、より深く地域と関わることができるように単元を連続的かつ発展的に構成し、実施することで、児童生徒の積極的に社会に参画しようとする態度を養うことができるであろう。

## 2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について表1に示す。

表1 検証の視点と方法

検証の視点		方法
1	児童の積極的に社会に参画しようとする態度を養うことができたか。 ※本研究では第5学年児童を対象	・ワークシート ・毎時間の振り返りシート ・単元の振り返りシート ・事前・事後アンケート ・行動観察
2	サービス・ラーニングを取り入れることは、児童の積極的に社会に参画しようとする態度を養うことへつながっていたか。	

表3 本研究に関わる単元計画「プロジェクトF～府中市を有名にするために新しい産業を提案しよう～」（全20時間）

SLの週	時	学習活動	評価規準（評価方法）	教科等との関連	SLの週	時	学習活動	評価規準（評価方法）	教科等との関連	SLの週	時	学習活動	評価規準（評価方法）	教科等との関連
持続（S）・調査（I）	1	<p>単元の接続 ・絵本「いのちをいただく」の読み聞かせを開き、食についての考えをまとめるとともに、職業について考える。 ・府中市の知っている仕事を挙げる。 ・府中市の特産物を挙げる。 ・府中市の産業の中で自分が知らないものがあるという事実から、課題をもつ。</p> <p>府中市の日本一の産業とはどのようなものなのだろう。誰に聞けば分かるのだろう。</p> <p>・次回への見通しをもつ。 ・振り返り</p>	<p>【知識・技能】(ア)（ワークシート・振り返りシート・行動観察）</p> <p>総合的な学習の時間：食～地域の農業～（食べ物とそれを生産する人々への感謝を理解する。）</p> <p>社会科：食料生産とわたしたちのくらし（生産の工程、人々の協力関係、技術の向上などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉える。）</p> <p>生活科：まちたんけん（身近な人々、社会の特徴やよさ、それらの関わり等に気付く。）</p>	<p>調査（I）</p> <p>3</p> <p>整理・分析 課題の設定 ・集めた情報を整理・分析する。 ・情報に基づいて、単元の課題を設定し、プロジェクトの立ち上げを行う。</p> <p>プロジェクトF～府中市を有名にするために新しい産業を提案しよう～</p> <p>▷振り返り</p>	<p>【思考力・判断力・表現力】(ウ)（ワークシート・振り返りシート・行動観察）</p> <p>社会科：工業生産とわたしたちのくらし（工業の優れた技術などに着目して、工業に関わる人々の工夫や努力を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え表現する。）</p> <p>▷振り返り</p>	<p>振り返り（R）</p> <p>13</p> <p>振り返り</p>	<p>振り返り</p> <p>・教室で行ってきた学習と、実際に行った活動を振り返り、目標を達成することができたかどうか振り返りを行う。 ・他教科等との関連について考える。 ・地域での役割について考える。</p> <p>▷振り返り</p>	<p>【知識・技能】(イ)【思考力・判断力・表現力】(ウ)（ワークシート・振り返りシート・行動観察）</p>	<p>特別活動：○○にかけて（多様な集団における活動や学校行事を通して学生生活の向上を図るために、学級としての提案や取組を話し合って決める。）</p>					
調査（I）	2	<p>情報の収集 ・府中市の産業に関する情報を収集する。</p> <p>地域のパートナー…府中商工会議所の方 ・府中市のニーズを確認する。（府中市の未来のために新しいアイデアが必要である。）</p>	<p>【未来を創る力】(オ)【思考力・判断力・表現力】(ウ)（ワークシート・振り返りシート・行動観察）</p> <p>総合的な学習の時間：企業訪問（府中市にある企業とその技術について理解する。）</p> <p>5 6 7 8 9 10 11 12</p> <p>情報の収集 整理・分析 まとめ・創造・表現 ・準備してきたことをまとめ、課題を解決するための具体策を活動に移す。 ☆予想される活動例……現在の企業が新しく生み出せそうな商品や新しく取り組めそうなプロジェクトを提案する。 ▷振り返り</p>	<p>活動（A）</p> <p>5 6 7 8 9 10 11 12</p> <p>【知識・技能】(ア)【思考力・判断力・表現力】(ウ)【主体性】(エ)【未来を創る力】(オ)（ワークシート・振り返りシート・行動観察）</p> <p>特別活動：係活動の振り返り ・準備してきたことをまとめ、課題を解決するための具体策を活動に移す。 ☆予想される活動例……現在の企業が新しく生み出せそうな商品や新しく取り組めそうなプロジェクトを提案する。 ▷振り返り</p>	<p>振返り（S）</p> <p>16 17 18 19 20</p> <p>振返り</p>	<p>振返り</p> <p>・学習を通して学んだことを確認し、新たな課題をもつ。 ・自分の将来の夢について情報を収集する。単元の接続 ・今の自分と将来的の夢について文章にまとめ、友だちと評価し合うとともに、第6学年の学習で調べたいこと、学びたいことを確かめる。 ▷振り返り</p>	<p>【知識・技能】(イ)【思考力・判断力・表現力】(ウ)【主体性】(エ)（ワークシート・振り返りシート・行動観察）</p>	<p>図画工作科：12年後のわたし（経験や技能を総合的に生かして、表し方を工夫して表す。）</p> <p>総合的な学習の時間：企業訪問（府中市にある企業とその技術について理解する。）</p>						

## IV 研究授業

研究授業について、表2に示す。

表2 研究授業について

期間	平成30年12月3日～平成31年2月13日
対象	所属校第5学年（1学級35人）
単元名	プロジェクトF ～府中市を有名にするために新しい産業を提案しよう～
目標	府中市の現状と課題について理解するとともに、それを解決するために自分ができることを考え、実行に移すことを通して、主体性や未来を創る力を育て、社会参画の意識を高めることを目指す。

また、本研究授業の単元において育成を目指す資質・能力及び評価規準を次頁表4に、実施した単元計画を表3に示す。

表4 本単元で育成を目指す資質・能力及び評価規準

知識・技能	(ア) 府中市の企業、職業の現状を理解している。 (イ) 働く人の、府中市や地域を思う気持ちを理解している。
思考力・判断力・表現力	(ウ) 府中市の産業に関する情報から問い合わせを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。
主体性	(エ) 課題解決に向けて自ら考え、判断し、行動しようとしている。
未来を創る力	(オ) 課題解決に向けて何をすべきかを考え、新しいアイデアを生み出そうとしている。

## V 研究授業の分析と考察

### 1 研究授業の概要

研究授業の概要を表5に示す。なお、研究授業は前頁表3における「実演とお祝い（DC）」の過程まで実施した。

表5 研究授業の概要

時間	過程・実施日	活動内容
1	持続（S）調査（I）	単元の接続 振り返り 食の学習を振り返り、府中市の産業の学習へと単元をつなげた。お米・生産品→農家・生産者→職業・産業と視点を移させた。 整理・分析 府中市の産業の日本一についての一部の情報を知ることで、何がどう日本一なのか、情報を基に考えさせた。
	12月3日	
2	調査（I）	情報の収集 商工会議所の方の話を通して、府中市の日本一の産業について情報を得た。 整理・分析 課題の設定 教わった情報を整理・分析し、自分たちにできることを考え、府中市有名にするため、新たな産業を増やすためのプロジェクトの立ち上げを行った。
	12月10日 12月12日	
4	計画立案と準備（P）	課題の設定 「新たな産業を提案する」という目標を設定し、課題解決に向けて、他の児童と話し合いながら、学習の計画を立てさせた。
	12月17日	
5 6 7 8 9 10 11 12	活動（A）	情報の収集 自分たちの課題に向けて、国語科と関連させ、情報を書き留める方法を確認し、府中市の産業についてさらに情報を集めさせた。 整理・分析 大判のシートに企業ごとの情報を書き込みませ、児童間で情報を共有させた。その後、企業の業種ごとに分類することで、情報を整理させた。 まとめ・創造・表現 整理した情報を基に、他の児童と話し合いながらアイデアを出させ、提案内容をまとめさせた。
		12月19日～1月28日
13	振り返り（R）	振り返り 振り返りシートを基に今までの活動を振り返り、各教科等とのつながりや、取組前の思いや考え方との比較、地域での自分の役割等を確認させた。
	1月28日	
14 15	実演とお祝い（DC）	まとめ・創造・表現 実行 地域のパートナーへ考え方を提案する会を開いた。他者評価を受けた後、提案について振り返り、地域について考えさせた。
		2月13日

### 2 児童の積極的に社会に参画しようとする態度を養うことができたか

積極的に社会に参画しようとする態度を養うことができたかを検証するために、平成30年度全国学力・学習状況調査質問紙から、地域に関するものを抜粋して事前（10月）・事後（1月）アンケートを作成し、実施した。事前・事後アンケートのうち、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えことがありますか。」という問い合わせに対する回答結果を右上図6に示す。図6のように、肯定的に回答した児童の割合が大きく増えていた。また、 $t$ 検定

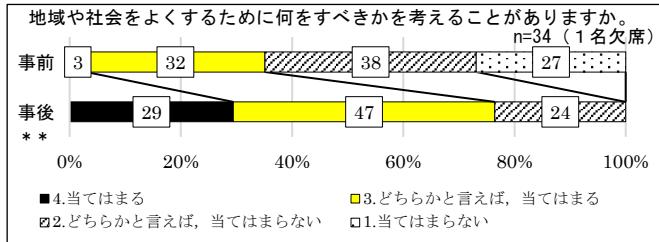


図6 事前・事後アンケートへの回答結果

の結果で有意な差 ( $p < 0.01$ ) が見られたことから、検証授業前に比べると、地域や社会のことを考え、何かできないかと考える児童が増えたことが分かる。次に、単元の振り返りシートにおける地域への関心に係る質問項目の回答結果を図7に示す。

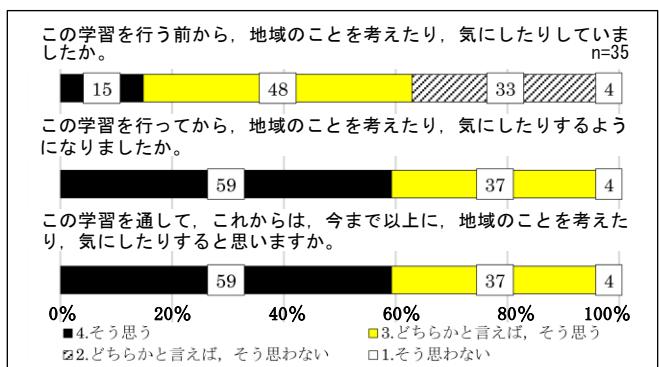


図7 単元の振り返りシートにおける回答結果

図7から、学習を通して、児童の地域に対する関心が高くなっていることが分かる。また、多くの児童が、今後はより地域のことを考えたり、気にしたりすると思うと回答していることから、地域へ関わろうとする意欲も向上していると考えられる。

さらに、単元の振り返りシートにおける「地域に住む一人として、自分には地域と関わる責任があると思いますか。」という問い合わせに対する回答をした児童は83%であった。

- 府中市をもっと良くするために、府中市にまだ足りないもの、必要なものを考えたいです。
- 自分は何ができるか、どうやったら府中市になるか考えることができた。
- ふだんから府中市のことについて考えていきたい。

#### 振り返りシートにおける児童の地域への関心を示す記述

上記は、毎時間の振り返りシートにおける児童の地域への関心を示す記述である。記述の内容から、地域への関心の高まりが見られた。これは、児童が本単元での学習を通して、地域と関わることの大切さに気付くことができたためだと考えられる。

これらのことから、児童の積極的に社会に参画し

ようとする態度を養うことができたと考える。

### 3 サービス・ラーニングを取り入れることは、児童の積極的に社会に参画しようとする態度を養うことへつながっていたか

#### (1) 地域のパートナーとの関わりから

では、児童の積極的に社会に参画しようとする態度の高まりは、SLによるものなのであろうか。SLを取り入れる際の条件とした、地域における人材等である地域のパートナーと学習過程の2点から検証を試みる。

本研究授業においては、商工会議所の方を地域のパートナーとして迎えた。単元の振り返りシートにおける「地域のパートナーとの関わりはこの学習をよりよいものへと高めたと思いますか。」の問い合わせに対する肯定的回率は、100%であり、全ての児童が地域のパートナーと関わることによって、学習がよりよいものになったと実感している。これは、「調査（I）」の過程において、児童が知り得ない府中市の産業に関する情報を教わる際に、地域のパートナーが教師の役割を担ったことが要因として挙げられる。地域のパートナーとの関わりについて、児童は次のように振り返りシートに記述している。

○商工会議所の方が持ってきてくださった企業の製品などを見せてもらつたのが心に残つた。府中市への提案を考えるのをがんばつた。  
○商工会議所の方に協力してもらい、府中市の有名なものが、もっと有名になるように調べて、まとめるのをがんばつた。

#### 振り返りシートへの地域のパートナーに関する児童の記述

のことから、地域のパートナーとの関わりが、児童の学習をよりよいものへと高め、児童の積極的に社会に参画しようとする態度を養うことへつながっていったと考えられる。

#### (2) サービス・ラーニングの学習過程から

SLの学習過程は、児童の積極的に社会に参画しようとする態度を養うことへと効果的に働いたのだろうか。主要な過程を基に検証を行う。

#### ア 「調査（I）」の過程について

本過程では、地域の産業の実態を知るために「情報の収集」を行った。その際、府中市の産業に関する情報を教師と地域のパートナーから提供した。

教師からは、府中市には日本一の産業があるという児童の知識とのズレ（ギャップ）がある情報を、一部の資料で示した。児童は、いったい何が日本一なのかと活発に議論し、一部の企業について知る児童から新しい知識を得ていた。また、学習後には複数の児童が自主的に産業について調べており、児童

の主体性の向上にもつながったと考えられる。

地域のパートナーからは生産品の実物を提示しながら日本一の産業について説明していただいたことで、府中市の産業について知識が少なかった児童だけでなく、自主的に調べ、既存知識をもっていた児童も強い関心を寄せていた。また「君たちが未来の府中市の主人公。」「府中市について学び、自分たちができる事を考えてほしい。」と声をかけていただいたことで、次のような記述も見られた。

○知らないことは調べて、自分も府中市に興味をもち、大人になって府中市に貢献できる人になりたい。  
○もっと府中市の産業について考えていきたい。  
○大人になつたら自分たちが府中市の主役になるということを意識して生活していく。

#### 「調査（I）」過程での振り返りシートへの児童の記述

その後も児童は、地域のパートナーへの提案に向けて前向きに学習に取り組んでおり、声をかけていただいたことが、児童の意欲の向上へつながったと考えられる。また、本過程では、児童は「情報の収集」「整理・分析」を通して「課題の設定」を行い、プロジェクトを立ち上げた。この一つの過程でも、複数の探究の過程を経験させることができた。

これらのことから、本過程においては、地域の実態調査を、地域のパートナーと連携しながら行い、複数の探究の過程を経ることで、児童の地域に対する関心が深まり、学習意欲が高まったと考えられる。

#### イ 「活動（A）」の過程について

本過程では、提案内容のまとめに取り組んだため、課題解決に向けて、複数の過程を経験させることができた。特に「情報の収集」では、インターネットに加えて、商工会議所の方からいただいた冊子も活用した。この冊子は、その後の過程においても読み返すなど、多くの児童が長く活用していた。児童の振り返りシートには「（企業名）が〇〇をしていることが分かった。」という記述が多く見られ、府中市の産業、企業に関する新しい知識を多く得ることができたと考える。また、「整理・分析」では、他の児童との交流を通して、情報を共有させた。表6は、児童が第1時と第13時の学習後に描いたイメージマップの記述内容の変化を表したものである。記述した個数の変化については、t検定の結果で有意

表6 イメージマップの記述内容の変化

	第1時	学習後（第13時）
平均	4.5個	7.8個
内容等	・名所、名物等 ・単語で、抽象的 ・偏りが大きい	・企業名及び生産品 ・企業の技術等優れていること・もの ・具体的で、様々なカテゴリーのもの

な差 ( $p < 0.01$ ) が見られた。

個数だけでなく、記述内容の深まりも見られたことから、SLを取り入れたことで「知識・技能」の習得につながったと考えられる。

## ウ 「実演とお祝い（DC）」の過程について

本過程では、提案の会を設定し、地域のパートナーへ向けて提案を行った。提案の会には、学校運営協議会副会長、所属校校長出席のもと、児童の提案に対し、講評する時間を設定した。本過程における振り返りシートへの児童の記述を次に示す。

○学習前はふつうの市だと思っていましたが、何がふつうの市だ！と思ふくらいすごい町だと知つて府中市に生まれてきてよかったです。命が力つきるまで府中にこうけんできる人になって府中をもっと有名にしていきたいと思いました。  
○府中市のことを一つでも手伝い、いろいろなことに関わっていきたい。  
○私は少しでも府中市のためにできることを考え、それを実行できるとうれしい。どんなに小さなことでも府中市の役に立つなら、いくらでもやりたいと思っている。

### 提案後の振り返りシートへの児童の記述

振り返りから、児童の地域に対する関心や、社会参画の態度の向上が見られた。これは、実際に提案することや、出席者からの他者評価が、児童の達成感や地域に生きる個人としての自覚につながったためであると考えられる。

## エ 各過程での「振り返り」について

振り返りは、振り返りシートによって毎時間の終末に行った。加えて各過程の終末には、プロジェクト全体としての進捗状況を確認し、見通しをもつ時間を設けた。振り返りシートは、本単元で育成を目指す資質・能力の四項目と自由欄の計五つの欄に自由に記述させる方法を取った。A児の第2時及び第7時の振り返りシートの記述を抜粋し、表7に示す。

表7 A児の振り返りシート（第2時・第7時）の記述

第2時	第7時
○府中市の産業は、府中市だけであんなにあることが分かった。（知識・技能） ○府中市のものを作っているのか調べてみたい。（自由欄）	○府中市の強みをたくさん書くことができた。（知識・技能） ○府中市の産業をどういうジャンルで分類すればいいのかを考えた。（思考力・判断力・表現力） ○府中市の産業であつたらいいなと思うアイデアを思いつくことができた。（未来を創る力） ○うまく今まで調べたことをまとめて、提案する準備をがんばりたい。（自由欄）

A児は、単元の導入期には、記述は2項目のみであったが、学習が進むにつれ記述する項目が増えている。学級平均も第2時に5項目中1.9項目への記述であったのに対し、第8時には5項目中2.7項目と増えており、同じように他の児童も記述する項目が増えたと捉えられる。また、自由欄への記述も「次は本なども見て、もっと府中市の強みを生かした商品を考えていきたい。」といったように、学習の見通

しをもって書くことができる児童が増えている。これは、児童が振り返りを繰り返すことで、次の学習や身に付けさせたい資質・能力を意識して学習する姿勢が身に付いてきたためだと考えられる。

以上のことから、SLを取り入れることは、児童の積極的に社会に参画しようとする態度を養うことのみならず、児童の資質・能力の育成へつながったと考える。

## VI 研究のまとめ

### 1 研究の成果

各学年の単元にSLを取り入れ、全体計画を再構成することができた。また、第5学年においてSLの学習過程である「持続（S）」や「振り返り（R）」を計画的に取り入れ、地域のパートナーとの協働を重視して指導を行った。その結果、児童は地域に関する知識を広げ、地域のために活動を行い、自分は地域の一員として地域と関わる責任があると考えることができるようになり、積極的に社会に参画しようとする態度を養うことにつながることが分かった。

### 2 今後の課題

継続的なSLの実施のために、地域の人材発掘や、日常的な連携・関係づくりを行うことが求められる。

また、今後は「持続（S）」の過程や、単元を連続的・発展的に構成することに視点をおいて構成した全体計画を実施・改善し、長期的に成果を分析・考察していく必要がある。

### 【注】

- (1) 国立教育政策研究所（平成27年）：『資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書1～使って育てて21世紀を生き抜くための資質・能力～』p. 29に詳しい。
- (2) Furco,A. (1996) :『Service Learning: A Balanced Approach to Experiential Education.』 pp. 3-5に詳しい。
- (3) 加藤智 (2015) :「改訂版 探究的・協同的な学びの視点から見たサービス・ラーニング」中野真志・加藤智『改訂版 探究的・協同的な学びをつくる一生活科・総合的学習の理論と実践一』三恵社p. 157に詳しい。

### 【引用文献】

- 1) 文部科学省（平成29年告示）：『小学校学習指導要領』 p. 175
- 2) 文部科学省（平成29年告示）：『中学校学習指導要領』 p. 159
- 3) ロジャー・ハート (2000) :木下勇・田中治彦・南博文『子どもの参画 コミュニティづくりと身近な環境ケアへの参画のための理論と実際』萌文社p. 42
- 4) 加藤智 (2015) :前掲書p. 157